

平成23年度
発生予察情報

特殊報第2号

平成23年10月26日
埼玉県病害虫防除所
(TEL:048-525-0747)

チャノキイロアザミウマによるナシへの寄生と被害について

チャノキイロアザミウマによるナシへの寄生と被害が、県内で初めて確認されました。

本虫は、葉に寄生して加害し、葉脈間組織をカスリ状の黒褐色に変色させます。

特殊報：新奇な有害動植物を発見した場合及び重要な有害動植物の発消長に特異な現象が認められた場合に発表するものです。

1 病害虫名 チャノキイロアザミウマ *Scirtothrips dorsalis* Hood

2 発生経過

- (1) 平成23年7月、県北部地域の梨園において、カスリ状の黒褐色に変色した被害葉が確認された。この被害葉から採集された虫について、横浜植物防疫所に同定を依頼したところ、ナシの葉に寄生するチャノキイロアザミウマであることが判明した。
- (2) 本虫によるナシの被害は、本県では初めて確認された。国内では、平成18年に神奈川県で確認され特殊報が発表されている。

3 形態及び発生生態

(1) 形態及び生態

成虫の体長は雌が0.9mm程度、雄が0.8mm程度で全体に黄色、1齢幼虫は0.3～0.5mmで黄白色、2齢幼虫は0.5～0.8mmで橙黄色を呈している。成虫は、背部中央にたたんだ翅が黒い条に見え、頭部及び前胸部は多数の横条刻線に覆われている。

年5～8回発生し、卵から羽化までの発育期間は20℃で約27日、28℃で約15日、成虫の生存期間は24℃で20～30日。越冬は、樹冠下の地面や枝幹の粗皮下、落ち葉の下等で、蛹又は成虫態で行う。蛹化場所は寄主植物により異なるが、樹冠内のすき間や地表面の落ち葉中、土壌表面等である。

(2) 被害

葉裏の葉脈間組織がカスリ状の黒褐色に変色するのが特徴で、被害を受けた葉は、葉表側に湾曲することが多い。徒長枝での被害が多く、先端部に成・幼虫の寄生が確認できる。

サビダニ類の被害に非常によく似ている。被害の見分け方は、サビダニ類では徒長枝の先端で被害が多く葉裏側に湾曲するが多いが、チャノキイロアザミウマでは徒長枝全体が変色するが多く、先端部に成・幼虫の寄生が確認できる。

また、葉の被害痕はチャノキイロアザミウマでは黒褐色のカスリ状であるが、サビダニ類では赤～暗褐色のサビ症状になる。



表側に湾曲した葉



徒長枝での被害



葉に寄生したチャノキイロアザミウマ



成虫（左）及び蛹（右）

4 防除対策

- (1) 徒長枝全体が変色するが多く、先端部には、成・幼虫が多く寄生するので、見過ごさないよう早期発見に努める。
- (2) 薬剤による防除を行う場合、表の薬剤を葉裏までしっかりかかるように散布する。

表 チャノキイロアザミウマ防除薬剤例

農薬名	系統	使用時期	使用回数
ハチハチフロアブル *	フェノキシベンジルアミド	収穫14日前まで	2

* 劇物

(使用基準は平成23年10月25日現在)

< 農薬使用上の注意事項 >

- 1 農薬は、ラベルの記載内容を必ず守って使用する。
- 2 剤の使用回数、成分毎の総使用回数、使用量及び希釈倍率は使用の都度確認する。特に、蚕や魚に対して影響の強い農薬など、使用上注意を要する薬剤を用いる場合は、周辺への危被害防止対策に万全を期すること。
- 3 農薬の選定に当たっては、系統の異なる薬剤を交互に散布する。
- 4 農薬を散布するときは、農薬が周辺に飛散しないよう注意する。
- 5 スピードスプレーヤを使用した防除ではドリフトが発生しやすいので、風のない日に適正な方法で散布する。
- 6 周辺の住民に配慮し、農薬使用の前に周知徹底する。